

令和6年度 山梨市立山梨北中学校 学校評価報告

1 はじめに

創立53周年を迎えた令和6年度は、光輝祭（学園祭）の2日間開催や全校生徒が一同に集う中での合唱発表会を催すなど、コロナ禍以前の日常生活が戻り始めた一年であった。

倉田憲一校長の学校経営方針の下で、学校教育目標達成に対する具体的な方向性が示され、確かな学力の向上、しなやかで豊かな心の育成そして健やかな心身の育成を目指し、教職員・生徒・保護者・地域が互いに手を携え、つながりを深めながら、これまで培ってきた教育実践を昨年度の進化からさらに深化させるように努めてきた。

その中で、全国学力・学習状況調査や県学力把握調査の結果に授業改善や学力向上に向けた取組が反映されただけでなく、部活動においても輝かしい記録を残すことができた。

しかし一方で、全国的にもおよそ35万人という不登校の状況が、本校でも課題の1つと言える。生徒が抱える背景は様々であるが、課題解決のために各学年や各学級で生徒一人ひとりに向き合うとともに、サポートルーム山北や保健室、ふれあい教室でのきめ細やかな指導、そしてスクールカウンセラーによるカウンセリングなどチームとして取り組んできている。学校教育目標を達成すべく、日々実践を積み重ねた今年度の山梨北中学校の概要と学校診断調査の結果は以下の通りである。

2 校訓・学校教育目標

校訓 『自律』

学校教育目標 『知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』

めざす生徒像

- (1) 自ら考え学習する生徒 (知)
- (2) 心豊かで思いやりのある生徒 (徳)
- (3) 心身ともにたくましい生徒 (体)

3 令和6年度学校経営方針

1. 新しい時代に必要となる資質・能力を育成する

(1) 知識・技能・思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等を育成する
ア. 世界に通じ、社会を生き抜く力を育成する。

- ① 「外国語教育」を充実させ、英語力の向上を図る。
 - ・英語科では、CAN-DO リストを基にした評価を行う。
 - ・検定試験(英検等)の受検を推奨する。

② 「小中連携教育」を推進する。

- ・全国学力・学習状況調査結果を共有して、課題改善のための取組を行う。

- ・合同研究会を開催し、授業改善や家庭学習等の具体的な取組を連携して行う。
 - ・生徒指導の成果や課題を共有し、中1ギャップを減らす等の取組を行う。
- ③「ICT」を活用した教育を充実させ、情報活用能力を養う。
- ・各教科の授業において、ICTを活用した授業実践を行う。
 - 「リーディングDX」事業の活用
- ④「キャリア教育」の質的・量的向上を図る。
- ・職業講話を行い、職場体験前後の指導を充実させ、職場体験を実施する。
- イ. 確かな学力と自立する力を育成する（学習指導の充実）
- ①子ども主体の授業への授業観の転換
- ・授業において1人1台端末等のICT環境を活用した、主体的・対話的で深い学びを充実する。
 - ・課題解決型の探究活動やSTEAM教育等の教科横断的な学びを充実する。
- ②「家庭学習」の定着を図り、家庭との連携を行う。
- ・「家庭学習の内容」を、下校前に生徒に理解させて、学習に確実に取り組ませる。
 - ・「生活記録ノート」等を活用し、計画的な学習習慣を身につけさせ、家庭とも連携する。
- ③学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えや思いに共鳴し、共感できる生徒の育成。
- ・横断的・総合的学習の充実「山梨市 ECHOES 学習」の導入
- (2) 体力の向上と健康教育の推進をはかる（健康で豊かな生活の営みを創出）
- ①体育的行事等の特別活動や休み時間、部活動等、学校教育活動を相互に関連させ、実践し、体力の向上に努める。
- ・「健康、体力づくり一校一実践運動」、体力テスト結果に基づく授業改善を行う。
 - ・基礎的運動能力の育成と、体育理論で習得した知識を各運動領域で活用する。
- ②「食」「安全」「心身の健康の保持増進」に関する指導を相互に関連させて実践する。
- ・保健教育を、各教科や特別活動、総合などに関連させて実践する。
 - ・食に関する、実情に応じた具体的な目標を設定し、計画的に取り組む。
2. 豊かな心と自己実現を図る力を育成する
- ①いじめに関する情報を共有し、いじめを許さない集団づくりを行う。
- ・いじめ防止等の対策のための組織をつくり活用する。
 - ・いじめ防止基本方針を点検・改訂し、生徒や保護者に周知を図る。
 - ・いじめを許さない集団づくりに関する校内研修を実施する。
- ②不登校生徒が生じない環境づくりを行う。
- ・不登校生徒の再登校や社会的自立を果たせるよう、組織的・計画的に支援する。
 - ・不登校が生じない環境づくりに関する校内研修を実施する。
- ③道徳的心情と実践力を高めるために、考え議論する授業を行う。

- ・通年を通して、あらゆる活動・行事において道徳的な実践ができるように指導する。
3. 一人一人のニーズに応じた特別支援教育を充実
 - 教員の専門性の向上と「個別の教育支援計画」の作成・活用を図る。
 - ・障害に関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、学校として組織的な対応を行うために、研修等を実施する。
 - ・「個別の教育支援計画」の作成の意義や活用方法について理解を深め、作成・活用し、切れ目のない支援を行う。
 4. 個々の生徒の自立を目指した通級指導教室を充実する。
 - 障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための知識、技能、態度及び習慣を育成する。
 - ・障害に関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、学校として組織的な対応を行うために、研修等を実施する。
 - ・全教職員が生徒の障害の状態等について正しい理解と認識を持ち指導し、配慮していく。
 5. インクルーシブ教育の推進
 - 共生社会の担い手づくり
 6. 子どもたちが安全で安心して生活できる環境づくりを行う
 - ①学級経営・ホームルーム経営の充実
 - ②「学校危機管理マニュアル」の見直しを行う。
 - ・実践的な防災・防犯等の訓練を計画的に実施する。
 - ・学校事故を未然に防ぐための、「施設・設備」の安全管理を適切に行う。
 - ・登下校の「交通安全」を適切に指導し、保護者や地域との連絡・協力体制をつくる。
 - ③家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。
 - ・家庭との連携を図り、地域社会の会議・行事等で積極的な交流、協力体制を図る。
 - ・各種「たより」等を通し、積極的に学校の情報を保護者や地域に提供する。
 - ④「学校評価」を「PDCA」で行い、結果の公表と意見を回答し、説明責任を果たす。
 - ・「自己評価」の項目の精選と共通化を行い、結果は「学校たより」等で公表する。
 - ⑤学校運営協議会制度の導入と充実
 - ・よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る。

4 教職員及び生徒数 ※育休の教員1名を除く (単位：人)

構成	教職員	生徒	保護者
調査対象人数	44	370	370
調査回答人数	39	327	220

5 学校評価項目

R6 山梨北中学校 診断調査質問項目				
	教職員	生徒	保護者	
1	学校生活 生徒は、充実した学校生活を送っている。	学校は楽しい。	子どもは、仲の良い友達がいいて、楽しく学校生活を送っている。	
2	校訓・目標 校訓、学校教育目標などを実現しようど努力している。	自分は、校訓、学校教育目標や生徒会スローガンを意識して生活している。	学校は、校訓、学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」などを実現しようど努力している。	
3	授業 教材研究・生徒の実態の把握、指導方法の工夫・改善などを通して「わかる授業」に努めている。	授業はわかりやすい。	学校はわかりやすい授業を行っている。	
4	学習指導 学習の遅れがちな生徒に対して、具体的な方策をもって、指導に取り組んでいる。	自分は、授業にしっかりと取り組んでいる。	子どもは、授業などの準備をきちんとしている。	
5	評価 生徒の意欲や努力を適切・公平に評価し、指導と評価が一体となるように、評価を生かした指導の改善を行っている。	先生たちは、生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる。	学校は、子どもの意欲や努力を適切・公平に評価している。	
6	家庭学習 家庭学習の充実を図るための指導を行っている。	自分から進んで家庭学習をしている。	子どもは、宿題や課題などにきちんと取り組んでいる。	
7	いじめ いじめのない学級づくり・集団づくりに取り組んでいる。	先生たちは、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	
8	教育相談 生徒や保護者の意見に対し、カウンセラングラインドをもとに傾聴し、指導支援を行っている。	自分には、仲のよい友達がいいて、休み時間など楽しく過ごしている。	学校は、保護者や子どもの相談にのったり願いに応えようとしてしている。	
9	友人関係 孤立している生徒がいないように、友達関係に気を配っている。	自分には、思いやりの心や生命、社会のルールを大切に、思いやりの心や生命、社会のルールを大切にしている。	学校は、思いやりの、生命の大切さ、そして社会のルールなど心の教育を大切にしている。	
10	心の教育 思いやりの、生命の大切さ、そして社会のルールなど、心の教育を大切にしている。	学園祭などの行事には、積極的に取り組んでいる。	学校は、学園祭や学年行事などにおいて、子どもが力を発揮できるように工夫している。	
11	行事 学園祭などの諸行事において、生徒は自分の力を発揮している。	自分は、部活動に一生懸命取り組んでいる。	子どもは、部活動に意欲的に取り組んでいる。	
12	部活動 生徒は、部活動に意欲的に取り組んでいる。	自分は、学級の係(清掃や給食当番など)や委員会活動などに熱心に取り組んでいる。	学校は、子どもたちの生活や学習にふさわしい環境づくりに積極的に取り組んでいる。	
13	専任教活動 生徒は、学級の係や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	学校は、学級の係(清掃や給食当番など)や委員会活動などに熱心に取り組んでいる。	学校は、健康増進や交通安全などに適切に対応している。	
14	環境 生徒たちの生活や学習にふさわしい教育環境づくりに努めている。	健康的に学校生活を送るために、体力づくりに励み、交通ルールを守って登下校している。	親として、子どもの学校生活に関心を持ち、子どもと会話するように努めている。	
15	健康安全 生徒たちの健康増進や交通安全等に適切に対応し、指導している。	自分から進んで地域の行事に参加している。	学校は、健康増進や交通安全などに適切に対応している。	
16	開かれた学校 家庭訪問・学年懇談会・三者懇談は、保護者と教職員の情報交換の機会となるようにしている。			
17	開かれた学校 授業参観の実施、学校だより学年だよりの発行など、開かれた学校づくりの取り組みが進んでいる。			
18	開かれた学校 開かれた学校			積極的にPTA活動に参加している。

学校診断調査（生徒）



■ 強くそう思うしている
 ■ そう思うまあまあしている
 ■ あまり思わないあまりしていない
 ■ まったく思わないしていない

7 学校診断調査の方法

- (1) 調査期間 令和6年12月2日(月)～20日(金)
- (2) 調査対象 教職員・生徒・保護者
- (3) 調査方法 Google Form または紙面による調査(記名あり)
- (4) 項目数 教職員：17項目 生徒：16項目 保護者：16項目
- (5) 分析
 - ・全体的な傾向と特徴
 - ・学び(学習)について
 - ・学校生活について
 - ・その他(環境、学校教育目標、社会に開かれた学校など)

8 学び(学習)について

数字はパーセントを表し、「強くそう思う・している」と「そう思う・まあまあしている」と回答した合計の割合を示している。(単位:%)

	質問項目	今年度	昨年度
生徒	2 授業はわかりやすい。	93.0	93.4
保護者	2 学校はわかりやすい授業を行っている。	75.5	75.7
教職員	2 教材研究・生徒の実態把握、指導方法の工夫・改善などを通して「わかる授業」に努めている。	100	95.9

生徒	3 先生たちは、生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる。	95.7	97.1
保護者	3 学校は、子どもの意欲や努力を適切・公平に評価している。	83.6	89.8
教職員	3 生徒の意欲や努力を適切・公平に評価し、指導と評価が一体になるように、評価をいかした指導の改善を行っている。	97.2	100

生徒	4 自分から進んで家庭学習をしている。	72.1	78.5
保護者	4 子どもは宿題や課題などにきちんと取り組んでいる。	84.5	85.5
教職員	4 家庭学習の充実を図るための指導を行っている。	88.8	95.9

生徒	14 自分は、授業にしっかり取り組んでいる。	95.1	96.1
保護者	12 子どもは、授業などの準備をきちんとしている。	85.0	85.9

教職員	16 学習が遅れがちな生徒に対して、具体的な方策をもって、指導に取り組んでいる。	97.2	95.9
-----	--	------	------

生徒質問項目「2. 授業はわかりやすい」には93%、「14. 自分は授業にしっかり取り組んでいる」には95.1%のポジティブ回答があった。全国学力・学習状況調査における本校の結果は、国語、数学ともに全国の平均正答率をやや上回る状況であった。県学力把握調査の結果も、推定全国値と比較して同等の水準を保っている。授業規律が確立され、教師と生徒の信頼関係が確固となっていることが、話を聴く姿勢や発表をする態度、時折明るい笑い声が聞こえてくるなどの日々の授業の様子からも伺える。昨年度のリーディングDX事業推進校での研究が反映され、ICTを活用した授業が当たり前となり、他者との協働や自己調整学習を通じて学んでいく生徒主体の指導への転換を図ることができている。教員のファシリテーターとしての授業への参画が主流となり、生徒に気づかせる声かけや問いの作成に取り組んでいた。

また、サポートルーム山北そして学校に登校できるが、教室に行きづらい生徒のためのふれあい教室の設置により、学習につまずきのある生徒に対するきめ細やかな指導につながっている。さらに、特別支援教育に精通する教員から校内研究において講義を受け、実践につながることができる環境であることも本校の強みの1つである。

しかしながら、全国学力・学習状況調査の結果において、国語では、「本文に書かれていることを理解するために着目する内容を決めて要約する」こと、数学では「18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する」といった質問への正答率が低かった。さらに、県学力把握調査の結果からも国語では「表現の効果について、根拠を明確にして考えている」こと、数学では「面と辺の位置関係について正しく理解し、問題文のことがらがいつも正しいとはいえないことを説明することができる」こと、英語では「対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている」ことへの正答率が低かった。これらの結果から、自分の考えの理由や根拠となる事実を明確に説明することが苦手である傾向が浮き彫りになった。そのため、自身の考えを言語化し相手にわかりやすく伝える練習を重ねる必要性が出てきた。

今回の学校診断調査で家庭学習にかかわる4番の質問項目に対する教職員と生徒のポジティブ回答が最も低く、また保護者の数値も昨年度から低くなった。今年度はタブレットを利用して取り組む「ミライシード（ベネッセ）」を校内研究において提案し、各学年の実態に合わせて活用した。これは、長期欠席者の学習補償としても有用である。さらに日常的な個別指導や三者懇談で、現状と課題を丁寧に説明している。今後も学習の習慣化や学習内容の定着に向けて、家庭と連携を図りながら、個に応じた対応を根気よく継続して行わなければならないと考える。

9 学校生活について

	質問項目	今年度	昨年度
生徒	1 学校は楽しい。	92.6	93.5
保護者	1 子どもは、仲の良い友達がいる、楽しく学校生活を送っている。	90.4	88.2
教職員	1 生徒は充実した学校生活を送っている。	100	100

生徒	5 先生たちは、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	97.6	96.1
保護者	5 学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	74.5	73.7
教職員	5 いじめのない学級づくり・集団づくりに取り組んでいる。	100	100

生徒	6 学園祭などの行事には、積極的に取り組んでいる。	98.4	97.8
保護者	6 学校は、学園祭や学年行事などにおいて、子どもが力を発揮できるように工夫している。	88.6	91.8
教職員	6 学園祭などの諸行事において、生徒は自分の力を発揮している。	100	95.9

生徒	7 必要があるとき、先生たちは相談にのってくれる。	96.1	97.8
保護者	7 学校は、保護者や子どもの相談にのったり、願いに応えようとしている。	86.3	85.5
教職員	7 生徒や保護者の意見に対し、カウンセリングマインドをもとに傾聴し、指導支援を行っている。	100	100

生徒	9 自分は、思いやりの心や生命、社会のルールを大切にして、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	97.9	98.0
保護者	9 学校は、思いやり、生命の大切さ、そして社会のルールなど、心の教育を大切にしてている。	83.2	86.6
教職員	9 思いやり、生命の大切さ、そして社会のルールなど、心の教育を大切にしてている。	100	100

生徒	10 自分は部活動に一生懸命取り組んでいる。	95.1	98.0
保護者	10 子どもは、部活動に意欲的に取り組んでいる。	89.1	88.6
教職員	10 生徒は部活動に意欲的に取り組んでいる。	97.3	100

生徒	1 2 自分には仲の良い友達がいる、休み時間などを楽しく過ごしている。	97.5	97.1
教職員	1 2 孤立している生徒がいないように、友達関係に気を配っている。	100	100

生徒	1 3 自分は学級の係や委員会活動などに熱心に取り組んでいる。	97.3	95.1
教職員	1 3 生徒は学級の係や委員会活動に積極的に取り組んでいる。	100	100

質問項目5に対する生徒の97.6%（昨年度96.1%）は、教員がいじめのない集団づくりに取り組んでいることを理解している結果となった。一方で保護者は、昨年度より数値は上昇しているものの、PTA活動に対する質問項目に次いで2番目に低い数値となった。「わからない」と回答した保護者が18.6%いる。生徒間トラブルについては、迅速かつ丁寧な対応を保護者にしており、また当該生徒には毅然とした態度で向き合っているが、保護者の自由記述にあった「イジメに対しても本当にないか確信がない」「娘は学校の話をほとんどしない」といった回答から、保護者の目が十分に行き届かないSNSでのコミュニケーションが増えていることや個人差はあるものの思春期を迎えた子どもとの関係、そして昨今の報道等による懸念が反映されていると考えられる。

文部科学省が出した通知によると、令和5年度のいじめの認知件数は約73万3千件と過去最多となった。また今年度8月には「いじめの重大事態に関するガイドライン」が改訂されるなど、全国的にいじめが依然として増加・深刻化している状況にある中で、本校職員の取組が生徒に理解されていることは大きな成果だといえる。QUアンケートによる分析、いじめアンケートや情報モラル教室の実施、生活記録ノートのコマメなやりとりから生徒の状況を把握し、早期発見・早期解決につながっていることが多い。

また、生徒質問項目「9. 自分は思いやりの心や生命、社会のルールを大切にして、いじめのない学級づくりに取り組んでいる」に97.9%（昨年度98%）、「12. 自分には、仲の良い友達がいる、休み時間などを楽しく過ごしている」に97.5%（昨年度97.1%）のポジティブ回答が得られた。この結果から様々な価値観をもつ多くの人が集まる学校の中で、生徒たちは互いに折り合いをつけることを学び、仲間とともにルールを守り集団で生活することの意味を考えていることがわかる。そこには家庭教育とともに、学年職員によるローテーションで授業を組み立てる道徳科における学びも、日常生活における行動変容の一助となったと考えられる。

そして部活動に関して、昨年度98%のポジティブ回答から95.1%に数値を下げた。その理由として、今回の学校診断調査に集団に入りづらい生徒たちによる回答が得られたことによるものである。受け入れ体制は整えているため、きっかけをつかめるようにしたいと考える。

10 その他（環境、学校教育目標、社会に開かれた学校など）

	質問項目	今年度	昨年度
生徒	8 学校の施設・設備は充実している。	88.7	86.7
保護者	8 学校は、子どもたちの生活や学習にふさわしい環境作りに積極的に取り組んでいる。	87.8	84.7
教職員	8 生徒たちの生活や学習にふさわしい教育環境作りに努めている。	100	95.8

生徒	11 自分は、校訓、学校教育目標や生徒会スローガンを意識して生活している。	92.0	89.9
保護者	11 学校は校訓や学校教育目標などを実現しようと努力している。	82.3	84.5
教職員	11 校訓、学校教育目標などを実現しようと努力している。	100	100

生徒	15 健康的に学校生活を送るために、体力づくりに励み、交通ルールを守って登下校している。	98.2	
保護者	13 学校は健康増進や交通安全対策などに適切に対応している。	88.2	87.5
教職員	14 生徒たちの健康増進や交通安全等に適切に対応し、指導している。	97.2	100

※生徒の質問項目15は今年度新出。

保護者	14 家庭訪問や懇談会、授業参観など、学校での生活や学習の様子を把握する機会は十分ある。	93.6	94.1
教職員	15 家庭訪問、学年懇談会、三者懇談は保護者と教職員の情報交換の機会となるようにしている。	97.1	100

生徒	16 自分から進んで地域の行事に参加している。	76.2	79.2
----	-------------------------	-------------	-------------

生徒質問項目「16.自分から進んで地域の行事に参加している」について、23.8%の生徒が「あまり参加していない」または「参加していない」と回答している。「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域との連携が必要不可欠になっている現在、学校運営への参画の促進や連携強化を進めるため本校の学校運営協議会は3年目を迎えた。総合的な学習の時間に1年生は「市内巡り」で地域の財産を見学し、2年生は「職業講話」を、3年生は「山梨未来プロジェクト」に取り組んだ。3年生では「まちづくり」「観光」「農業」「商業」の4つのカテゴリーについて生徒の視点から様々なアイデアを出し合った。実効性のある取

組となるように今後は教科横断型学習を通し、いかに地域で一緒に生徒を育てていくかを模索していく必要があると考える。

そのため、コロナ禍で削減される行事も多い中で、地域の行事に参加している生徒の数が昨年度より低下していることが数値として出ていることが懸念される。長期休業中に行われる地域行事には進んで参加できるように、学校側でも体制を整えていこうと考える。

また、登下校時における交通ルールのマナーについての意見が、地域から学校へ寄せられ、その度に注意喚起してきてはいるが「15. 健康的に学校生活を送るために、体力づくりに励み、交通ルールを守って登下校している」には 98.2%の生徒が「できている」と回答している。毎年交通安全教室を開き、ルールの遵守について指導をしている。本校北側の道路や大通りを横断する際など、特に気をつけなければいけない場所が多くあり、一部の生徒がルールを守れなかったとしても、生徒全員が自分事として受け止めるように今後も繰り返し保護者や地域とともに指導していく必要がある。

生徒にとって、質問項目 15 は体力づくりと交通ルールが混在しているため、判断がつかなかったのかも知れない。来年度は、項目を「健康」と「交通ルール」を分けて質問をしなければならぬという反省点でもあった。

1.1 まとめ

昨年度と比べて、数値に多少の上下はあるものの同等の結果となった。本校では、すべての学校教育の下支えとなる学年・学級経営が充実している。生徒質問項目「3. 先生たちは、生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる」への回答が 95.7%であったことからわかるように、生徒それぞれの良さを認め、時に厳しく、時に温かく見守り励ましている日々の実践がある。

現状として、学習のつまずきのある生徒に対して具体的に指導をする山北サポートタイムなどの時間確保の必要性、様々な要因によって学校に来ることができない生徒に対しチームで協力して取り組む体制など組織として考えていかなければならないことが喫緊の課題である。

今回の調査の数値からポジティブ回答を多く得られたものの、学校と家庭の間にギャップがあることがわかった。そのギャップを埋めるために生徒や保護者そして地域からの意見に耳を傾け、生徒をより良く成長させたいという共通目標に向けて合意形成を図るべく対話を続けていく必要がある。全員が納得することは難しいが、最適解を見つけていくことが重要だと考える。

Society 5.0 の時代、テクノロジーの急速な発展や新たな改革が次々に提案される変化の中で右顧左眄する状況が生まれても、学校長の学校経営方針に従って共通認識の下で、盤石とも言える指導体制を今後も強固にしていきたいと考える。